

日常点検項目10ポイント（チェックリスト）

1	製品に刈草（枯れ草）やごみ（異物）の詰まりはありませんか。	☐
2	燃料もれはありませんか。 また、古い燃料の使用はやめましょう。	☐
3	飛散防護カバーが所定の位置に取り付けられ、 取り付け部の緩みはありませんか。	☐
4	刈刃の取り付けボルトの緩みと止め具のズレはありませんか。	☐
5	エアフィルターは定期的に掃除をしましょう。	☐
6	ギヤケースには定期的にグリス注入をしましょう。 異音やガタがあれば交換しましょう。	☐
7	各取り付け部（ボルト・ナット）の緩みはありませんか。	☐
8	肩掛け（背負い）バンドの破れや、緊急離脱装置に異常はありませんか。	☐
9	刈刃の場合、刃の欠けやひびはありませんか。 あれば交換しましょう。	☐
10	ナイロンコードの場合、長さは規定内になっていますか。	☐

※安全と快適作業の為にやまびこ純正部品・アクセサリーをご使用ください

YAMABIKO
株式会社やまびこ

URL <http://www.yamabiko-corp.co.jp/>

国内販売会社

やまびこジャパン株式会社
〒198-0025 東京都青梅市末広町1-7-2
URL <https://yamabiko-japan.co.jp/>

拠点情報は
こちら ▶



●不明な場合はお買い求めの販売店へご相談ください

No.0041

KIORITZ

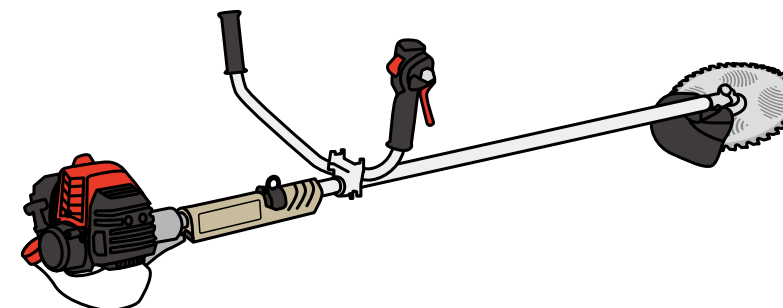
shindaiwa

ECHO

刈払機の正しい使い方

安全 読本

快適作業のお役立ち



YAMABIKO

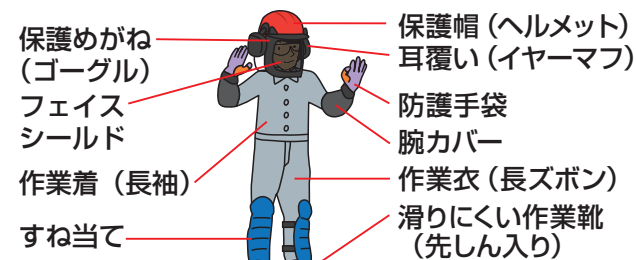
刈払機の正しい使い方

1 必ず取扱説明書を 読みましょう。



ご使用前に、製品に付属の取扱説明書をよく読んで十分に理解してから運転操作をしてください。

3 作業に適した作業服・ 保護具を使いましょう。



裾じまり・袖じまりの良い草刈り作業に適した作業服と保護メガネ、耳栓、フェイスシールド、防振手袋、作業靴、すね当て等の保護具を着用してください。

5 飛散防護カバーは必ず指定された位 置に装着して作業しましょう。



飛散防護カバーは作業者の方へ異物が飛んでくるのを防ぎます。外して使用すると事故を招く恐れがあります。

7 エンジンの始動は周囲を 確認してください。



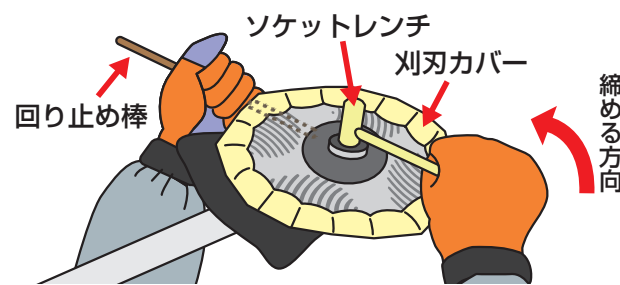
エンジン始動時は周囲に人がいないことを確認のうえ、刈刃を地面から浮かせてください。

2 こんな時は運転操作 しないでください。



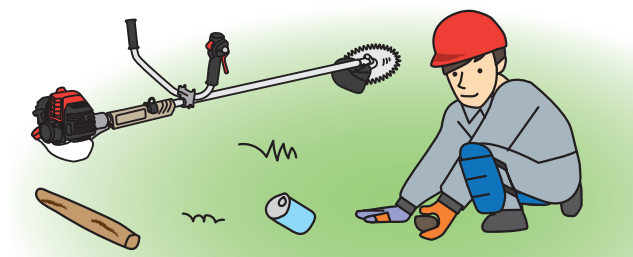
病気・過労・体調の悪い時や妊娠中の場合、また、お酒や身体に影響を及ぼす薬を飲んだ時は作業を行わないでください。

4 作業前に各部の点検を してください。



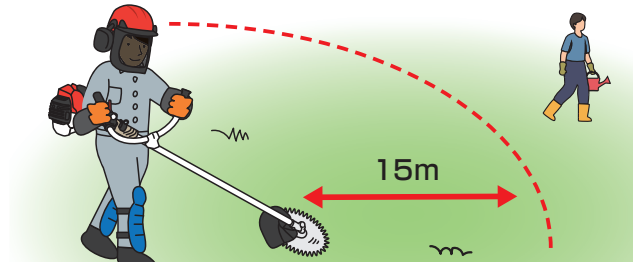
各部品がきちんと取り付けられているか確認をしてください。特に刈刃は正しく取り付けてください。

6 あらかじめ作業現場の障害物 を取り除いておきましょう。



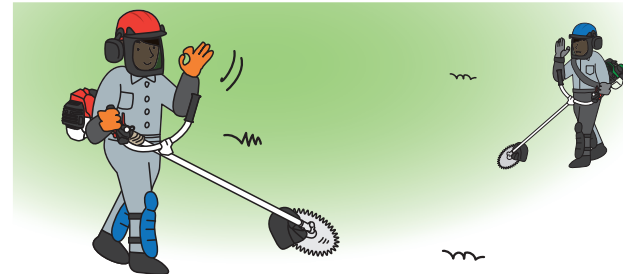
作業中に刈刃が石や空き缶などの障害物に接触すると、思いがけない方向に飛び跳ねることがあります。

8 作業中は 15 メートル以内に 人を近づけないでください。



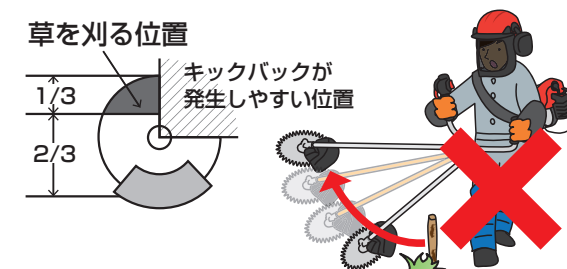
異物が飛び散りますので、周囲は危険です。特に子供には注意してください。

9 草刈り中の作業者に近づくと きは合図をしましょう。



笛など、あらかじめ安全な合図を決めておき、作業者がエンジンを止め、刈刃が止まってから近づきましょう。

11 刈刃の左側前方 1/3 の位置で 草を刈ってください。



草が良く切れるのは刈刃の左側で前方 1/3 の位置です。右側前方位置に物が接触するとキックバックが発生して危険です。

13 エンジン式刈払機は 振動工具です。



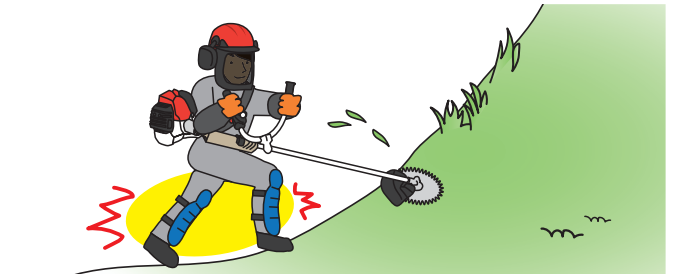
長時間連続での作業は控え、身体に不調を感じたらすぐに使用をやめてください。※使用時間は振動の大きさによって規制されています。

15 製品の調子が悪い時は、 すぐ作業をやめてください。



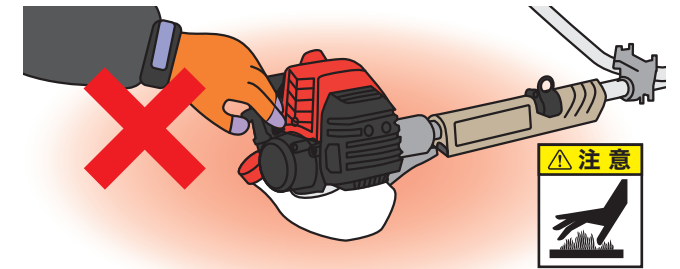
使用中に異常な振動や異音を感じたらすぐにエンジンを停止してください。原因が分かり、修理が終わるまで製品を使用しないでください。

10 傾斜地での作業は 足場を確認してください。



傾斜地では不安定な体勢になり、また雨上がり後は滑りやすく危険です。一歩ずつ足場を確かめながら作業を進めましょう。

12 やけどに注意してください。



使用中、使用直後はエンジン・マフラーなどが高温になっていますので、触れないでください。

14 燃料補給はエンジンを停止し、エン ジンが冷えてから行ってください。



高温のまま補給をすると、ガソリンに引火して火災の原因となります。燃料をこぼした場合は必ず拭き取ってください。

16 長期格納時は燃料を 抜いてください。



長期間使用しない時は、燃料タンク・気化器内部の燃料を抜いてください。燃料が変質し不具合の原因となります。